2024年度　学校自己評価システムシート （ 秀明大学学校教師学部附属秀明八千代高等学校 ）

目指す学校像	常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする
重 点 目 標	1　自主学習習慣を身に付け、生涯にわたって真理を追究する力を育成する。 2　集団や社会の中で互いの個性を尊重し、健全に生活する力を伸ばす。 3　家庭と連携し、持続可能なより良い社会の創生を目指して自己実現を図る志を養う。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不 十 分	（４割未満）

学　校　自　己　評　価								学 校 関 係 者 評 価
年　度　目　標					年　度　評　価（３月３１日現在）			実施日：令和７年６月１７日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	・誓いの言葉、自学自習の記録により、目標を立てて具体的に努力を積み重ねる指導を行っているが、目標の明確化や学習意欲に課題があり、学習習慣に個人差がある。	自主学習習慣の確立と学力の向上	・「自学自習の記録」アプリの「学習の記録」を用いて生徒の現状を的確に把握する。	①「学習記録」による自主学習習慣の状況 定期考査の振り返り、「学習記録」および「学期を振り返って」の記載内容 ②総合的な探究の時間の学習状況	・「学習記録」は担任が確認し、「生徒へのメッセージ」欄にコメントを記入した。 ・総合的な探究の時間に各学級において取り組み中間的な成果を文化祭で発表した。	B	・アプリへの記録に個人差がある。滞りがちな生徒に、記録の習慣を身に付けるよう指導をする。 ・調べてまとめる活動は充実をしてきた。キャリアプログラムのワークショップ等を通して行動力を培う。	・学習記録や振り返りにより、自分の課題を把握する習慣が身についた。 ・担任とのやりとりを通じて、学習への意識や向上心が高まっている。 ・英語アプリの活用により自主学習が進んでいる。 ・学習記録が形式的にならないよう、書く意味を意識させる工夫が必要。 ・自主学習の目的や方法について、生徒が主体的に考える機会が必要。 ・スキルコードの活用により、生徒が自分の苦手分野を把握しやすい。 ・目先の内容だけでなく、将来を見据えた応用力ある授業をしてほしい。
	・思考力・判断力・表現力を育成するためにスキルコードを開発し、指導と評価を一体的に改善している。 指導・評価両面においてさらに改善の余地がある。	授業の改善と指導力の向上	・授業・定期考査においてスキルコードを活用し、「知る喜び」を実感させる学習指導を行う。 ・研修授業を行い、教科で検討会を行って授業を改善する。 ・授業アンケートの結果をもとに授業を分析して改善する。	③授業・定期考査におけるスキルコードの活用状況 ④研修授業の実施結果、検討会の状況 ⑤授業アンケートの改善状況	・定期考査の全ての教科の問題にスキルコードを記入し、出題の狙いを生徒に周知して、観点別評価（1.2年生）に結び付けた。 ・主体的・対話的で深い学びを実現するために、スキルコードを活用した指導案を作成した。 ・アンケート結果の分析を校長に報告し、継続的に授業を改善した。	B	・スキルコードは安定した運用ができている。教科係会議で検討を重ねる。 ・生徒の主体性・協働性には個人差がある。授業をさらに工夫する。 ・ICTや新しい教育方法等の研修に努め、評価の向上を目指す。	
2	・心の学習を中心に、基本的な生活習慣を確立し、自他を尊重し、学校生活をより良くする指導を行っているが、人間関係能力の向上に課題がある。	心の学習	・新聞記事を事例に、正しい判断力や思考力を身に付けさせる。 ・頭髪・身だしなみの指導は、学年ごとに指導するとともに、全教員が一体になって行う。 ・協働的な取組を学級、授業で行う。	⑥新聞記事の活用状況 ⑦頭髪検査の合格状況 ⑧生徒の人間関係の状況	・新聞記事を教員が毎日選んで教室に掲示し、考えを書かせた。 ・頭髪検査、身嗜み指導を定期的に行った。 ・人間関係において問題が起きた場合は、組織的に解決をした。	A	・新聞記事を元にした意見発表、討論まで指導のレベルを上げる。 ・身嗜みを整える意義の理解が不十分な生徒の社会性を高める。 ・多様性、包摂性（Ｄ＆Ｉ）の意識を高め、互いに尊重し合う精神を醸成する。	・新聞掲示や記事抜粋などが語彙力向上に寄与しており、思考力や知識を育てる環境が整ってきている。 ・定期的な面談やアンケートが生徒のSOS把握に役立ち、心のケアにもつながっていて非常にありがたい。 ・心の問題は見えにくいため、継続的な観察と声かけの工夫を期待する。 ・社会人への第一歩として、5つの約束を守る意識が育まれており、基本的なマナー習得につながっている。 ・生活アンケートや面談によって、生徒の悩みに早く気づける仕組みが整っており、安心感がある。 ・ITリテラシーやSNSの扱いなど、現代的な課題に即した新たなルール整備も視野に入れる必要がある。
	・社会性を高めるために５つの約束を遵守する指導を行っているが、インターネット等の影響により規範意識に課題がある。	５つの約束	・「善いことと悪いこと」「許せることと許せないこと」の区別をきちんと理解させる。	⑨「心の学習」の題材に対して生徒が作成した文章の内容	・学校長の訓話の内容について、自身の経験を踏まえ、考えをまとめることができた。	A	・SNSやスマートフォンの使い方に課題があり、外部講師の講話や学級での話し合いを通して規範意識を高めると共に、スマートフォンとの距離の取り方も学ぶ。	
	・父母から授かったかけがえのない命・身体を互いに大切にする指導を行っているが自己管理意識や自己肯定感の低さ等に課題がある。	健全な生活	・生活アンケートや面談の実施によりいじめの防止に努める。 ・様々な感染症の予防指導を通して、生活の安全に対する意識や共生社会実現への意欲を高める。	⑩生活アンケート、面談の実施状況 ⑪定期考査の振り返り 「学習記録」「ルーブリック」および「学期を振り返って」の記載内容	・生活アンケートを定期的に実施、生徒面談は月に２回程度行っていじめの防止に努めた。 ・それぞれの振り返りにより、目標を持って努力をする習慣を身に付けさせることができた。	B	・面談、生活アンケート、アプリでの状況掌握を継続する。 ・前向きに挑戦する意欲や自己肯定感の低さが課題であり、様々な働きかけを行う。	
3	・家庭と連携し、保護者の立場になって有為な社会人としての資質を育成している。	家庭との「共育」「協育」	・保護者会・三者面談を実施し、学習面や生活面、進路について共通理解のもとに、生徒の将来のために話し合う。	⑫保護者会、個別面談の状況	・保護者会を２回（４，９月）、三者面談は対面とオンラインの選択式で３回（７、１２、３月）実施し、多数の参加があった。	A	・保護者会には今年度以上の参加を呼びかけ、学校と家庭の「共育」「協育」を促進する。	・オンライン面談や日常の相談対応がスムーズで、信頼関係の形成に役立っている。 ・学校に足を運ぶ機会が多く、生徒の様子を直接見ることができるのは好印象。 ・高校生の実態を家庭がつかみにくくなっており、接点の強化が課題となっている。 ・早期から進路に関する資料や実績を示すことで具体的な目標を持たせている。 ・ユネスコ活動の機会があり、生徒全員が社会貢献に触れる機会となっている一方で、意識の差が大きく、定着させるための工夫が必要である。
	・志望する進路を実現させる指導を行っているが、３年間を見通した系統的な指導及び大学合格実績に課題がある。	志望進路の実現	・a-PGTを核にした系統的なキャリアガイダンスを実施する。 ・総合型選抜・学校推薦型選抜に活用できるキャリアプログラムの実施。	⑬進路希望状況、進路実績 ⑭学びの記録、学校行事の振り返りなどの自学自習の記録Webへの入力状況	・希望する進路が決定するように努め、上級学校への進学率は91.7%、内４年制大学への進学率は70.6%であった。 ・学びの記録を自学自習の記録アプリにまとめることができた。	B	・キャリアプログラムを新たに実施し、進路希望調査を定期的に行って進路意識を系統的に高める。 ・学習記録の蓄積だけでなく、その活用を促していく。	
	・社会貢献の志を高める指導を行っているが、経済優先の風潮の中で、持続可能性を意識した公徳心が育っていない。	持続可能な社会への貢献	・全ての学習をSDGsの視点で捉え、地球社会への貢献を意識して活動させる。 ・ユネスコスクール登録校としての活動をする。	⑮SDGsの学習活動記録 ⑯ユネスコスクールとしての活動実績	・校外学習ではSDGsの考え方に基づき、事前・事後の学習を充実させた。 ・八千代市ユネスコ協会とキャリアプログラム「ストップ地球温暖化！」等の活動をした。	B	・SDGsの達成に向けて生徒一人ひとりが行動できるよう、担任と教科担当者、進路指導部が連携をして生徒を指導し、生徒が活動の記録を蓄積できるようにする。	